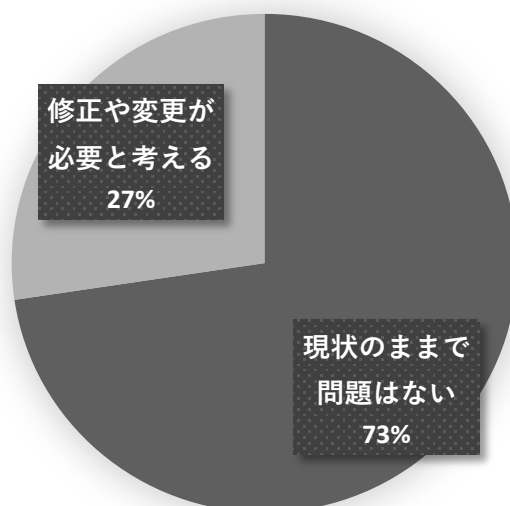


日本学校農業クラブ連盟 全国大会実施基準改定に向けたアンケート（平板測量競技会）

実施期間：2020年8月31日～10月1日実施
実施対象：日本学校農業クラブ連盟加盟校
回答数：223校／380校

1. 平板測量競技会の現状と課題について

平板測量競技会の現状と今後について



《修正や変更が必要と考える》

- 競技要領図表が測点5点の図表になっていることについて改訂の方向が示されているが、そもそもの全国大会実施基準では多角形の辺数は9以内となっている。まずは実施基準そのものをしっかり見直してはどうか（北北海道）。
- 参加チームが少なくなっている現状を踏まえて、やめてもいいと思う（東北海道）。
- 平板測量は今現在使われる機会が少なく、平板測量競技を行うことに対して疑問がある（東北海道）。
- 教科書では量こそ少ないが、取り扱い事項であり造園や林業では活用しているところもある。また、高価な機器に頼らず測量の原理も分かるため効果は大きい（岩手県）。
- 測量会社などではほとんど使用されておらず、実用的でないということから、それに代わる測量の競技を検討してもいいのではないかと（岩手県）。
- この競技会があることで生徒の成長の場面や機会があります。今後も継続して実施して欲しいと思います。また平板測量は社会の現場では形を変えて存在しています。高校では測量の基礎的・基本的な技術や知識をしっかりと理解・習得するためにも、必要だと思います。学校生活や部活動でも生徒のチームワークの大切さを教える機会がありますが、この競技にもその部分を育てることができる機会だと思います。全国大会Q&Aの内容も実施基準に盛り込んで作成して欲しい（秋田県）。
- 水準測量による高低差の測定に移行してはどうか（秋田県）。
- 平板測量自体が行われるケースが少なくなっている。レベルを使った水準測量は路線や宅地整備等あらゆる場面で用いられることから、水準測量に移行してはどうか（秋田県）。
- 工業科の先生方、社会人の方々にお聞きしても実施していることが時代にそぐわないとのご意見であった。競技自体の廃止も検討していく必要があると思う（山形県）。
- 平板測量競技以外のものへの変更もそろそろ考えていく必要がある（福島県）。
- 本校では該当カリキュラムがないため参加していないが、使用器具等の調達が難しくなっている現状があることは把握している。数年先を見越した改善が必要なのではないかと（群馬県）？
- 実際の現場では、平板測量は活用されていないため、今後の競技会実施について考える機会があってもよいと思います（群馬県）。
- 機材や技術の変化に対応した内容に変更してはどうか（埼玉県）。

- 6点の図表でも差し支えない。平板測量は測量の基本のため必要である。競技会は生徒の目標になりやすく、学習意欲を高める効果もあるため、ぜひ実施していただきたい（埼玉県）。
- 競技の特性でもあるが、測量の技術以外の部分で差をつけている状態であると思う。工業科の測量競技を参考に競技そのものを変更するべきではないか？（埼玉県）
- 実社会において、平板測量を用いて仕事をしている会社はない。時代に逆行している感じがする（千葉県）。
- 平板測量競技要領図表の測点を6点に改定したほうが良い。平板測量は測量の基礎基本を学ぶ重要なものなので今後も実施すべきであり、競技性もとても高いので、生徒の成長には欠かせない競技である。今後の測量技術が進歩することも考えて新しい技術での競技も考えてほしい（神奈川県）。
- 教科書の平板測量に関する記載が少ないことや、平板に関する道具が購入できないため、競技を練習することができないためこれ以降の実施は困難だと考えられる（神奈川県）。
- 社会に求められる技能とかけ離れている（神奈川県）。
- 今後も実施基準は6点でお願いしたい。資材がもうないのではないかな。ぜひ意見について検討をすすめてほしい。引率者や平板測量指導者でまずは話し合った方がよいのではないかな（神奈川県）。
- 平板測量は、測量の基本的な技術を学ぶことはできるが、現在は使われなくなってきている技術であり、大会競技としての実施には不向きではないかと思われる。また、生徒・教員の減少により実施が難しくなっているという現状もあり、今後は、公開競技とする方向で検討していただきたい（山梨県）。
- 今の平板測量競技が、この時代に必要か検討する。（物品購入なども難しいと聞いているため）（山梨県）。
- 平板測量という技術が、近年の現場でどれだけ活用できるのか？少し疑問である。現状に即した競技内容に変更すべきではないだろうか。備品等の環境整備の問題もあるとは思いますが準換期だと感じています。審査基準の詳細が不明な点が多い。（全国大会事務局にならないと実際の減点事項がわからない）よって、審査員の審査項目、減点内容等の詳細を公開して欲しい（静岡県）。
- 農業鑑定競技、プロジェクト・意見発表については農業に関する学科、系列のある学校がほとんど出場することができるが、平板測量競技は限られた学科の出場となる。そのため、平板測量競技は全国大会の種目から外すのが適当である（静岡県）。
- 平板測量は世の中の動向に即していないため、継続を打ち切ってもよい。かわりとなる内容については検討してもらいたい（静岡県）。
- 競技会の継続について早期検討が必要なのではないでしょうか（新潟県）。
- 測量の基本は平板測量だと思うが、現状では器具等が手に入りにくい状況があると聞いている。時代に合わせた測量での競技に変更してもよいのではないかな（新潟県）
- ドローンなど使った測量競技も時代にそくしていいと思います（新潟県）。
- 1：社会（現場）ではほとんど平板測量は行われていない。時代にそぐわないのではないかな。2：現状の競技会は平板測量に期待される精度から大きくはずれており、「測量を学ぶ」という観点からは意義が薄いのではないだろうか。3：炎天下での練習や県大会の際に、無帽や半袖で行われており、全国大会において、着帽や長袖着用を義務づけ、地方大会、練習時にも波及させていったらどうだろうか（長野県）。
- 現場において必要とされていない（長野県）。
- 5点から6点図に変えるべきである。また、平板測量の資材の入手が難しくなっているため、測量内容を変える必要があると考える。指導者の指導力向上のため、勉強会を行うと良いと思う（富山県）。
- 測量器具を丁寧に取扱うことは大切なことであるが、動作ごとに器具の取扱いで減点することについて審議してもらいたい（富山県）。
- 平板測量競技会は、たいへん特殊な競技であります。そのため、「全国大会実施基準※1」以外に、大会ごとの指示事項として全国大会事務局が発表する「平板測量競技会実施要項」内の競技実施要領※2、「平板測量競技会事前Q&A（昨年は195項目）※3」及び「事前Q&Aに対する質問への回答（昨年は74項目）※4」を段階的に発表し、出場チームに申し合わせることで、競技ルールの浸透と統一を図ってきたと考えます。この流れにのっとり、県代表となったチームの指導者は、指導において競技ルールの逸脱しないよう練習に工夫を施し、研究を重ねながら、全国大会に臨んでいるものと思います。近年の大会では、※1内P.24 D 採点基準（d）作業動作、作業態度におけるブラックボックス的な書き方による曖昧さを、明確に補備する目的（審査員の主観に頼る減点項目に対して、競技の公平性を保つ観点から）で、計269項目にまで肥大したQ&A（※3、4）を使用して申し合わせを行うようになったと想像します（次頁つづき）。

また、この競技会の特殊性は、審査に係る民間人や公務員の方々の数の多さにも見られます。しかも毎年、審査員が入れ替わります。運営する側の苦勞としては、審査員数十名を一堂に集め、明確な採点基準のもとに公平な審査を行うための養成教育を、繰り返し行わなければなりません。今の時代、審査員の方々におかれても、平板測量器具を扱った経験のある方は、数少ないと思います。このように、この競技は、出場（指導）する側は、そのルールの複雑さと不明瞭さに苦しみ、運営する側は、上述のD 採点基準（d）作業動作、作業態度の解釈及び審査員の教育・養成に苦勞する。すべては、公平な競技を実施するためではありますが、両者に計り知れない苦勞と努力を強いらざるを得ないという背景が存在します。しかも、これまでに順位や得点の公表を行った大会は1度もなく、せいぜいが、全出場チームの得点分布をグラフで示すぐらいでした。（現行では、それでも良しとしなければいけないのですが。）計269項目もの主観による減点を、参加49チームすべてに公平なチェックを施し審査することが、現実的に可能なのだろうか。

同様のことは、県代表を決定する各県連盟競技会にも言えることです。恐らく多くの県では、実施基準にQ&A（※3、4）を用いず、県連盟独自にカスタマイズされた採点基準で審査を行っているのではないのでしょうか。参考までに、本県連盟においては、民間人である審査員との入念な打ち合わせを通じて競技ルールの浸透を図り、出場チーム数が少ないことも幸いし、結果発表後にチームごとの個別講評を行い、指導者と出場選手に課題点やアドバイスを伝える（職業的実践能力の育成）ようにしております。

前置きが長くなりましたが、この度の実施基準の見直しについて、出場者側と運営者側が共にwin-winとなるような改善が行われなければ、見直しの意味がないと考えます。結果的として、改善が不可能なら、現行にそぐわない競技であるとの判断も致し方ないものとして受け入れるべきでしょう。平板測量競技会の存続については、これまで幾度となく議論されてきたことも容易に想像できます。「平板測量は、すべての要素が詰まる測定の原点、基本である。」との理屈も正論であると思います。しかし、（北陸大会を控え、自らにプレッシャーをかけるようですが・・・）農業クラブ全国大会において、最も重視しなくてはならないことは、競技の公平性です。公平性の担保のための「結果として採点基準に不明瞭さを残したまま」や「順位や得点又は及第点や（個別の）課題点を公表しない」では、いっこうに指導技術の伝承や職業能力の育成につながらず、手厳しいルールの壁に跳ね返されるばかりの新参者や若手指導者は、誰かに頼ることも許されず、静かに気力が減退していくだけです。

そのような観点からも、このままでは時代にそぐわない競技会となってしまう恐れがあります。（北陸大会では、この課題に対し、できるかぎり挑戦したいと考えます。）以下に、上記※1～4に関する改善方法を述べたいと思います。手順としては、「平板測量競技会事前Q&A（昨年は195項目）※3」及び「事前Q&Aに対する質問への回答（昨年は74項目）※4」を整理精選した上で、「全国大会実施基準※1」及び「平板測量競技会実施要項」内の競技実施要領※2、に反映できる部分を見直しにより改訂・追加し、Q&Aの肥大化・重複化をなるべく抑える。①「全国大会実施基準※1」P.17 A 競技基準（d）使用器械器具等 ル及びカに事前Q&ANo.12及び153を反映する。また、P.20 平板測量競技要領図表（1）及び（2）、P.21（3）仕上り図面の一例、P.22（4）距離測量によるオフセット野帳の一例を6測点のものに変更する。その際、事前Q&ANo.77～81を反映した図表とする。（図表については、P.20とP.22を修正したものを添付します。）②「平板測量競技会実施要項」内の競技実施要領※2（2）指示事項において、縮尺、測点数、測量方向（右回りか左回り）、対角線及び検線位置を発表する方針で良いが、9月下旬の発表では少し遅い気がする。なお、南東北大会事前Q&A（195項目）を例にあげれば、40項目ほどを（2）指示事項に反映することも可能なため、より詳細な指示事項となるように全国大会事務局及び実施運営担当校に努力してもらいたい（Q&Aの肥大化抑制）。また、発表の時期が、事前Q&Aの発表と同じ時期ならば、指導者は、Q&Aに対するより具体的な質問を行いやすい（石川県）。

- 平板をやり続けることの意味があまりない。世間とのずれ（就職）。違うものを考えるべき（愛知県）。
- トランシットに変更（滋賀県）。
- スケジュールについては良いと思います。6点図表の改定についても賛成です。競技会についての継続については検討が必要だと感じています（京都府）。
- 生徒及び教員や担当者に関する感染対策、場所や人数の制限等の配慮をお願いします（大阪府）。
- 教科書にないものを実施することはできないと考えます（兵庫県）。
- 平板測量競技は工業教育会でも実施していることもあり、継続でお願いしたい。しかし、万が一継続しない場合は、別の種類（トラバンス測量）など検討する必要があると考える（鳥取県）。
- 平板は測定の基本だと思うが、企業等では使用していないのが現状である。トータルステーションを用いた（5角形）測量に変更してもよいのではないかと（岡山県）。
- 現実社会で平板を使用しているかということ、皆無に等しく、また、器具一式をそろえるのにも一苦勞である（岡山県）。

- 平板測量を競技のためだけに学ぶ必要はなく、水準・セオドライトを全国大会の実施競技とした方が良いのではないか。また、平板を実施するのであれば測点は6点にすべきであるとする（岡山県）。
- 実施できる学校数が減っているため修正が必要と思われる（岡山県）。
- 平板測量の技術が必要とされていない現状があり、代替する測量技術での競技実施が適切であるとする（愛媛県）。
- 現在の測量技術を考慮すると、廃止または変更を検討する時期である（愛媛県）。
- 現在、県内で平板速力競技の指導を行っている学校数が減少しているため、今後修正や変更を行うべきだと思います（愛媛県）。
- 近年の状況を考えると平板測量から違った測量競技に変更してはどうか（高知県）。
 - 例）トータルステーションを使った測量競技 理由としては、現場で使用されている主な測量機器はトータルステーションやオートレベルであるため。
- 現状に即した6点の図表に改定することに賛成 ・平板測量競技会の継続については、変わるものがあるのかどうか。平板測量以外のもので基準や大会とし成立するものがあるかどうか。水準測量ならば、汎用性があり、どの環境系の学科でも対応できるのではないだろうか（高知県）。
- 平板測量を行う作成図面の美しさや、座標点の理解、図面の正確さにより求める面積が異なることを実際に理解できる競技であり、正確に早く測定することが目的になることをふまえて、今後も継続していかなければならない競技である。 競技の実施基準では、測点が5角形と6角形の検討もあったようだが、5角形で行う場合は競技時間を短くすればよい（運営時間や採点の短縮化にもつながり、天候の影響もすくなくなる）。 6角形に変更すれば、実際の競技のままで済むので、どちらかに統一するほうが望ましい（佐賀県）。
- 減点項目については細かく記載した方がよい。 ・平板測量の変わりにトータルステーションを用いた競技を検討した方がよい（工業高校で実施）（長崎県）。
- 測量の基礎を学ぶという意味ではよいが、現実的に現場で使われることは少ない。別の内容を検討することも必用ではないか。（例水準測量を実施、縦断面、横断面を作成や土量の計算など） もし、平板測量を実施する場合は、審査基準を公表すべき（長崎県）。
- 平板測量は時代に応じた手法とは言えず、また、機材等を購入しようとしても、入手困難な状況にもなっているのが現状であるように思う。審査については詳細に何がどう審査されたのかが分かるとその後の指導に繋がると思う（熊本県）。
- 専門外のため正確に回答をすることができません（熊本県）。
- 実施基準の測点は6点にする必要がある。 また、平板測量ではなく、セオドライトを用いた角測量・測距・求積計算に変更していくべきである（熊本県）。
- 審査基準が曖昧である。最優秀賞と優秀賞の結果（差）を公表すべきである。各校どこが減点されているかがわからず、次年度に活かすことができない（熊本県）。
- 現在の社会情勢に合わせた内容にするべきだと強く感じます（大分県）。
- そろそろ平板をやめて、トータルステーションを活用しましょう。 平板の生産が終了しているため、今までの雨天時の内容でいいのでは。またはトラバース測量で行う等検討してもらいたい（宮崎県）。
- 本県では参加校・参加者の減少に伴い形骸化されてきている。本県以外でも同様の状況ではないか？大会に参加できない都道府県が出てくるのではと懸念される（鹿児島県）。
- 科目の特性に応じた競技の運営が必要だと思います（鹿児島県）。
- 平板測量よりもトランシットやレベルのほうがまだ社会で使うのではないか。ドローンの操作、知識を競うほうが現実的ではないか（沖縄県）。
- 平板測量は、公共機関や建設現場において今現在あまり行っていない現状が伺える。 建設協会や測量協会の意見を取り入れ、「トランシット競技会」や「新たにドローン競技会」の開催など。生徒の更なる知識と技術の習得、即戦力で地域社会に貢献できる人材の育成を目的に新しい競技会を開催してもよいのではないかと考えます（沖縄県）。
- 平板測量競技をトランシット測量競技に変更することを検討してよいのではないのでしょうか 具体的内容については今後、検討していけばよいと思います（沖縄県）。
- 意見欄にもありますが、測量競技内容の変更が必要だと考える（平板に変わる測量競技）（沖縄県）。